

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076100207		
法人名	有限会社 福寿草		
事業所名	グループホーム 福寿草		
所在地	〒820-0703 福岡県飯塚市北古賀731番地3		TEL 0948-72-5558
自己評価作成日	平成22 年 11 月 2 日	評価結果確定日	平成22年12月06日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ日差しや風を気持ちよく感じ、広く明るいロビーからは田舎の景色が望めます。お天気次第では庭やウッドデッキにて体操や歌を楽しみ昼食をします。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成 22年11月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム 福寿草は、緑豊かな自然環境に恵まれ、爽やかな風と、温かい日差しを受け、全室南向きの居室では、利用者の健康面だけでなく、精神的な支えとして、心身機能の維持向上に繋がっている。管理者と職員は、利用者のその人らしさを尊重し、喜びも悲しみも共有し、ホームでの暮らしの中で、側に寄り添い優しい支援は、来訪者の気持ちを和ませている。オーナーは、地元出身で、地域住民として活動し、地元やホーム行事の交流は活発である。また、利用者や家族の希望で、現在、ターミナルケアを2人実践し、管理者と、チームワークのとれた職員が、家族と密に連絡を取り、利用者の終末期が穏やかに過ごせるように、全力で支援している姿は、感動的である。今後は市町村と協働で、地域密着型グループホームとして、更なる工夫を重ねていくことを企画中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を共有し実現に向けて取り組んでいる。	「その人らしさの尊重、その人らしい人生の継続の支援、楽しく、笑顔で穏やかに、安心、安全、地域で慣れ親しめる家づくり」を理念に掲げ、管理者と職員は理念を共有し、一丸となり実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①自治会に入会し地域の行事等に参加している。 ②近隣の方が季節の野菜や果物を持ってきてくださる ③地域の方の散歩コースになっているのでご挨拶し世間話等する。	自治会に加入し、地域の夏祭り、子供会の廃品回収に参加している。地域の方から、野菜などの差し入れがあり、また、地域の高齢者の介護相談を受けるなど、地域の一員として役割を担い、積極的な交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアを活用し現状を知ってもらう		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状報告をする。今まで食事だけは自立できていた利用者が寝たきりになりサービスの内容が変わったり、家族の思い等を伝え意見をサービスに活かしている。	会議は、2ヶ月毎に定期的開催され、利用者、家族、民生委員、地域代表、市職員、ホーム職員が参加し、状況報告や現在取り組んでいる内容について報告し、参加者から情報や、意見をもらい、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の状態の変化を家族と共に相談し今後の事を話合う。	市職員は運営推進会議のメンバーであり、ホームの実情や取り組みを伝えると共に、ミーティング時に人権の勉強会の講師をお願いするなど、連携を深めている。	市町村との連携はとれているが、今後は管理者の認知症についてのノウハウを活かしながら、公民館などで介護相談会を行うなど、市との協働事業を構築していくことを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の生命に関わる事、それしか方法がないのか家族を含め話し合いを重ね家族に書面にて説明、同意を得る。観察をし必要がなくなれば解除する。	管理者、職員は、身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解した上で、見守りを強化することによって、利用者の安全を確保しながら、自由で、抑圧感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	つい最近夜勤者が利用者へ虐待と思われる行為があった。10月で解雇した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の関わりが困難な利用者は地域権利擁護事業の活用をしている。	日常生活自立支援事業の該当者がいることから、管理者、職員は、権利擁護に関する制度について学び、利用者、家族に情報提供し、必要な時に支援できる体制作りをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の決心をされるまでホームに何度でも来ていただき不安、疑問を尋ねる。理念を理解、納得される様に支援します。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満は時々職員が横に寄り添い聞くようにしている。内容によっては主任・管理者に報告する。	利用者の意見、要望は、利用者の目線で寄り添いながら聴きとっている。家族に関しては、運営推進会議時、利用料の支払いに来訪される時、他の面会時等に、ゆっくり話しをする時間を設け、意見、要望を聴いている。	日頃から、家族の来訪が多いため、ホームの行事、レクリエーションを利用して、家族交流会から始め、家族だけで悩みや不安を出し合える家族会の設立を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月／1回のミーティングを行い職員の意見や提案を聞き、話し合い出来る事は反映させている	月に1回、1時間、全職員が参加して中身の濃いミーティングを行い、情報を共有すると共に、活発な意見を出し合い、出された意見は出来るだけ運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	はい		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集時、性別や年齢は問わず面接を行い福祉の仕事や生活に一生懸命な人を採用します。	職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢などを理由に区別することはせず、介護に対する想い、姿勢で採用している。事業所で働く職員については、休憩室、休憩時間を設け、一人ひとりが生き生きと勤務できる環境整備に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権は尊重しながら支援をしています。職員の人権教育は月／1回のミーティングの時間を利用して年／1～2回行政にお願いし勉強会をします。	ホームの理念に基づき、利用者の人権を尊重しながらのサービスを実践すると共に、年に数回人権についての勉強会を実施し、人権についての認識を確認し、共有している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士・介護支援専門員の資格取得など協力、支援をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの同業者の利用者や職員をお招きし、ボランティアによるフラダンスや歌を楽しみ交流しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や求められる事に傾聴し、家族として安心して暮らせる場所であることを理解していただける様にしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設からの入所と自宅からの入所では家族の思いに違いがあるようです。本人や家族に何度でも訪問していただきホームからも会いにいきます。忙しい家族からの話はなかなか一度では聴きとれませんので面会時間の決まりがない事を告げ細かく面会にきてほしいと話し急がずゆっくり本人が暮らせる場所づくりをする努力をしています		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでの関係者も含めて検討します		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目線を同じにし本人になにかをしようとする時、声かけをし納得していただき行動する。昔の歌など教えてもらう。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が孫を連れてこられたり、成人式の姿を見せにこられたら皆で喜び合います。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住所のある地域から敬老会への誘いをうけた時は本人や家族に確認し参加している。久しぶりの再会を喜ばれます。	開放的で、人が訪れやすい雰囲気作りに努めていることから、日頃から家族の来訪が多い。また、利用者の以前住んでいた地域の敬老会へ参加されるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活観を思うと、孤独な時間が好きな人もいて難しいけれどホールで過ごす時椅子から立ち上がろうとする人がいれば手をかしたり、マフラーやひざ掛けと一緒に掛けたりされる光景もあり見守っています		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後継続的な関わりを必要とされた利用者や家族の例はありませんが必要とされれば断ち切らない付き合いをしていきたい	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小さな団体生活の中でも本人の暮らし方の希望や意向は、話し合いや観察で取り入れるように努力している	毎日の暮らしの中で、利用者の言葉、表情などから、思いや意向を読み取る努力をしている。意向の表出の困難な方に対しては、生活暦や家族からの情報をもとに、本人本位の対応に努めている。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からより多くの情報を尋ね、長年暮らしてこられた住まいを見に行く事もある	
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている	
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員とよく話し合い計画が実行できる介護計画を立てている	本人、家族の希望、想いを大切にしながら、担当者会議には家族も参加し、関係者で話し合い、気づきや意見を出し合うことによって、本人の視点にたった、その人らしく暮らし続ける事を支える介護計画を作成している。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の記録により申し送りや情報を共有し身体、精神状態の変化に気づき介護計画の見直しをする	
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	立地条件に恵まれており、外気浴、体操、レク歌、散歩、食事などを多く取り組んでいます	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方が歌や踊りにきてくださいます。お礼に毎日練習している歌をお聞かせし、上手と喜んでくださいます。利用者さんも得意げに大きな声で歌います		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の納得のもとで定期的な往診や受診を支援している。	利用者、家族の希望を大切に、家族と相談しながら入居前のかかりつけ医の受診を支援している。また、ホーム提携医による定期的な往診や訪問歯科など、安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医と協力し、看護師と相談しながら適切に対処している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時医師や看護師との情報交換に努めている。退院が決まれば医師・家族・ソーシャルワーカーと今後の生活について話し合いをし、受け入れの体制を整えます		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期と医師に言われ3年～3年半が過ぎようとしている利用者が3名います。家族とはホームでの看取りについて理解を得ています。最後まで救急車で病院に搬送はしなくて良いとの事。自然な老死を希望されています。家族の気持ちを文章にいただいています。	家族と繰り返し話し合い、本人、家族の願いを大切にしながら、現在、ホームでの看取りに向けて実践中である。家族、医療関係者と密に連絡をとりながら、方針、情報を共有し、職員も一丸となって取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はしていません。とにかく慌てず対応するようにと伝えてあります。代表者や管理者はホームの近くに住みすぐかけつけられる体制はあります		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃より近隣の方にホームの状態を知っていただいています。災害時の救出のお願いもしています。非難訓練は定期的に行っています。自火報装置ありスプリンクラー11月中旬より工事開始です	地域にも協力を呼びかけ避難訓練を行い、緊急時に慌てず避難誘導が出来るよう備えている。また、スプリンクラー設置予定であり、非常災害時に備えて、食料や飲料水も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自室へ入る時は本人に目的を伝え入室する。自室におられる時はノックする	職員は、利用者一人ひとりのその人らしさを大切に、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことを徹底している。常に本人の気持を考え、さりげない言葉かけや、優しい対応を心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを表現できない方もいますが同じ目線で話してみます。ウンウンとしか言われないでも納得されたと感じます		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操や歌の時間に皆さんに日にちや曜日の確認をします。その時、今日の行事やなにをすすごしたいか等尋ねます。叶えられる希望は支援します		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝はパジャマから普段着に着替えます。好みの服を自分で選ばれます。理・美容は認知や身体状況に合わせ本人の希望を支援します		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ等、出きることは一緒にする。後かたづけも本人の能力に応じされる。検食は昼食時代表者又は管理者がする	すり鉢でいりこを搗るなど利用者と職員と一緒に食事の準備を行い、心のこもった美味しい食事を、利用者と職員が、同じテーブルで、会話しながら楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥や噛めない利用者はミキサー食にトロミをつける。十分な水分補給を心がけ記録に残す		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きやうがいを促しています。皆さん習慣になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2ヶ月前に入所されたアルツハイマー認知症の利用者がトイレの確認ができず、どこでも放尿でしたが本人・職員共慣れてきたのか放尿の回数が減りました	水分、排泄チェック表で、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や動きを、看ながらすぐに手を貸すのではなく、行きたいときにトイレに行くことが出来るよう個別の排泄支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類、水分を日ごろから多く摂るよう心がけています		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴で時間帯を決めています。その中で個々にそった支援をします。きめてあるから絶対その時でなければならない事はありません。体調や本人に合わせて決めることもあります。	基本的に1日おきの入浴であるが、希望があれば毎日でも可能である。入浴拒否の人に対しては、言葉かけを工夫しながら気持ちよく入浴できるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食のあとは特に眠くなるようでソファで傾眠したり自室で休眠をとる等さまざまです。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方箋を見分けやすいようにしている。症状の変化に注意し報告や記録をする。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室にて洋服のアレンジが好きでどうかすると一日中針仕事をされる利用者がいます。無理をしないように声かけし散歩などを促す		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や受診、買い物に出かける支援はしています。	ホームの前に、大きな桜や団栗の木があり、そこに集まる鳥のさえずりを聴きながら、広い庭で食事をしたり、お茶を飲んだり、遠くへ出かけなくても十分に外気浴が出来る環境である。先日は甘木の健康ランドに出かけ、お芝居を観たりして、利用者に喜んでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さや執着はどなたもあると思いますが管理が出来ないと周りに迷惑になりますのでできるだけ本人が所持する事は避けています。本人がどうしても所持したいと言われる利用者は家族と話し合い小額にさせていただきました。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個定電話利用については本人の申し出により利用可能。かかってきた時は本人に代わる。携帯電話はを職員が知らない所で使用する事に問題が発生しホームで預かりにしました		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立地条件が良く居間や自室から十分季節を感じられる。自室は全室日当たりが良く一日中暖かい日差しが差し込みます。	共用空間は掃除が行き届き清潔である。広いリビングに大きなソファが置かれ、利用者は思い思いの場所にゆったりと座りくつろいでいる。また、広々としたウッドデッキでは天気の良い日にテーブルを出してお茶を飲むなど、季節を感じながら居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には一人になれる場所はありません 気の合う同士で語り合ったり、笑ったり、たまには喧嘩もあります。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた物を持ってこられ思い思いの部屋作りをされている。ジュータンやカーペットは足を引っ掛け転倒の恐れがあるのでお断りをしています。	居室は広く、一日中日が射し込み、編み物好きの利用者は窓辺で背中に日光を浴びながら編み物を楽しんでいる。入り口には暖簾をかけたり、タンスや机など馴染みの家具を持ち込んでもらい、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	アルツハイマー認知症の利用者が2ヶ月前に入所されました。放尿があり苦勞しています。当初に比べると放尿の回数が減ってきました。本人の慣れと職員の対応が上手になりました		